

2011年11月18日
東洋医学総合はりきゅう治療院 一鍼
院長 児山 俊浩

『東日本大震災被災地鍼灸ボランティア活動報告』

2011年11月16日、17日で東日本大震災被災地鍼灸ボランティア活動を行いました。



3月11日の東日本大震災発生すぐ現地へ赴きたいと思い続けて、チャリティーバザー、募金箱、缶バッジ、物資や支援金・義援金の寄付など中部地区としての後方支援としての活動をして参りました。

しかし、震災から8ヶ月が経ち、復興が進まない中、この震災を風化させてはいけないと思い、そして、寒くなりボランティアが減少していく中で、今こそ被災地へ行くことができればと思い、行かせていただきました。



宮城県東松島市の仮設住宅集会所にて3台のベッドと受付を配置し、4名の鍼灸師のうち1名受付(樋口先生のお弟子の先生)、3名施術(横浜の鍼灸教員の先生、当院から2名)を担当しました。高血圧で鍼灸施術後に収縮期、拡張期ともに10 mm Hg下がった方や、股関節痛で脚をひきずっていらした方が、施術後歩行時に痛みが軽減して喜んでくださいました。合計9名の被災者の方々にお一人お一人丁寧に施術させていただき、鍼灸治療が初めての方もいらっしゃいました。被災された方々のお話を聴かせていただき、施術させていただき、皆さま、本当にとっても人柄が良く、不自由な生活環境の中でも前を向いている笑顔に、私の方が元気をいただけてしまいました。今回のボランティアでは、被災されたお一人お一人と向き合い、しっかりと施術することを大切にしました。そして、様々な症状をかかえる心と身体に鍼灸にできることは大きいと感じました。ボランティアや医療の行き届いていない仮設住宅に、継続して今後も活動が続けることが大切だと思いました。





また、石巻、女川の現在の状況を見させていただきました。瓦礫が以前よりは整理されていましたが、町は壊滅的な状況には変わりはありませんでした。とても感じる事が多く、やはり実際に現地を見る事は、大切なことであると思いました。復興にはまだ時間が相当にかかると思いました。これからも継続して、自分のできることをさせていただければと思います。



この機会を創っていただきました愛知県鍼灸専門師会会長長谷川先生ならびに、被災地でのボランティアコーディネートをしてくださりました宮城県鍼灸師会会長樋口先生、現地で大変お世話になりました先生方に心より感謝を申し上げます。

